

母と子

並木の歩道を
母と子がゆく

買いものの途中であろうか
母は籠を下げ子の手を引いている

子のかたことをしゃべり
楽しげにうたっている

その天真さ
その無邪気さ

みじんのいつわりもなく
いささかのてらいもない

道行く人はふりかえって子にほほえみ
母はいつくしみの目をはなさない

私はこの子に神の心を見
この母に仏の慈悲を見る